

2024年度 事業計画

<団体本部の活動>

- ・ケニアNGOボードへの登録
- ・ケニアでの団体口座
- ・インターンの採用
- ・ファンドレイジング
- ・新規法人口座の開設（現在は任意団体口座）

<現地活動（ケニア共和国キスム郡コゴニ準区）>

母子保健講習会事業

- ・母子保健講習会を継続的に実施するとともに、母子保健に係る他事業と連携し、啓発内容の拡大と深化を図る。

—概要—

キスム郡は世界的にも母子死亡率の高い地域となっている。その主な理由としては、病院の産婦人科設備などを含む社会インフラの問題と、妊娠や出産、育児などの過程で必要となる知識が浸透していないといった教育の問題が挙げられる。

※キスム郡の母子死亡率（2019年統計）

妊産婦死亡率：343人（10万人当たり）

新生児死亡率：39.1人（1,000人当たり）

幼児死亡率：63.1人（1,000人当たり）

STAND ALIVEでは、このうち後者の教育の問題に対応するため、任意団体としての設立時より、地域の保健ボランティア（Community Health Volunteer、CHV）約40名と協働し、保健衛生や栄養、病気、予防、発育、通院、妊娠中の行動などを含めた、母子保健知識の啓発活動を行ってきた。（実績については、別添資料参照）

2023年度においては、精神保健事業、オリセットネット配布事業、若年妊娠抑制事業などと、活動を一部連携させることにより、講習内容をさらに広く、深化させていくことができた。

調理実習事業

<ケニアにおける栄養問題と調理実習の意義>

ユニセフの公開する統計データによると、ケニアでは5歳未満の子供のうち28%(3~4人に1人)が栄養不良の状態にある。また、ケニアの貧困層において、最低限の食事の多様性を満たしているのは2割以下とされる。2018年のケニア統計局のデータでは、一人当たりの食品別カロリー摂取割合は穀物(トウモロコシ、小麦など)が45.4%を占めており、野菜は1.1%、果物は4.7%のみとなっている。穀物以外の食品に多く含まれる鉄分、葉酸、亜鉛、ビタミン類などの微量栄養素の欠乏症もケニア国内で深刻な問題となっており、このような栄養素の欠乏は、特に5歳以下の子どもや妊産婦の死亡率増加のリスク要因にもなっている。実際、事業地を含めたキスム郡の貧困地域では、住民の栄養に関する意識の低さが見て取れる。お金もないため、栄養不足や栄養の偏りが見られ、発育障害や消耗症などのケースも多い。安価で油分の多い粗悪なフライドポテトのようなものが主食になっているような子どもたちもおり、カロリーは取っているが栄養不良になるケースも見られる。こうした問題に対して、当団体の推進する調理実習は有効な打開策となっている。実習で使われる食材などの費用は、参加者たちが講習会ごとに毎回出し合ってプールされた資金で賄われており、準備するのも参加者たちである。従って、地域で安価で手軽に入手できる食材のみに絞られ、日々の生活への応用が容易であり、参加者たちは栄養に関する知識や意識を高めるだけでなく、経済的な問題を回避してバランスの取れた食生活を実現できるのである。

<物価高騰への対応>近年ケニアでは、急激な物価高騰が人々の生活状況を悪化させ、首都ナイロビやキスム郡では激しいデモが起こる程になっている。コゴニ準区を含む、キスム郡の貧困地域においても物価高騰の影響は顕著で、住民達は食材の確保に苦労



<ケニアの食料インフレ率(2019年4月~2023年4月)> 参照:ケニア統計局データ

し、キスム西準郡保健局の保健政策担当者は、地域の栄養事情の悪化とそれに伴う、子供の健康への影響を懸念している。このような状況に対し、当団体は現在行っている調理実習を拡大し、物価高でも比較的手ごろな食材を使用して栄養バランスの取れた料理について学習できる場をより多くの住民たちに提供することを計画している。これまでの母子保健講習会に参加したことのない住民達を集め、調理実習を行う。

※活動の主な資金:

医療貢献活動助成（公益財団法人テルモ生命科学振興財団） 1,000,000 円

水衛生改善事業

<プロジェクト実施の背景>

【一般的な課題】現在、世界では 20 億以上もの人々が適切なトイレ施設を利用できない環境にあり、発展途上国では、4 人に 1 人が野外排泄を強いられている。こうした状況の集中する貧困地帯では、排泄された糞尿が土壌や地下水源を汚染することから、コレラや下痢疾患を始めとする水系感染症が流行し、毎年 140 万人もの人々が命を落とし、10 兆円にも上る人的損失が生み出されている。また、行政は病気の対策に資金を費やすことになり、本来行うべき政策ができず、貧しい人々の生活環境は改善されないままとなる。こうしたことから、貧困地帯の土壌・水質汚染問題の解決は、保健衛生や環境のみならず、経済や社会問題に繋がる重要課題であると言える。

【事業地における課題】ケニア共和国キスム郡コゴニ準区は、ヴィクトリア湖に面する貧困地帯である。ほとんどの家庭にトイレがなく、そのため、野外排泄が日常的に行われており、土壌や水源の汚染が深刻な問題となっている。ピットラトリン（地面に穴を掘った落とし込み式の簡易型の便所）なども建設されているが、大半が何世帯もの共同使用で管理がずさんになっており、穴に溜まった尿尿が溢れ出てきたり、蛆を大量に発生させていたりする。こうしたことから、ヴィクトリア湖を含む水環境の悪化ならびに地域全体の衛生環境の悪化が進み、コレラなどの水系感染症や下痢症の蔓延に繋がっている。これらの問題の解決には衛生的なトイレが必要だが、ケニアの都市部以外の地域では排水設備が整備されていないため、水洗トイレの導入は難しい。同国で一般的に使用されるピットラトリンについては、雨季に大量の雨で尿尿が穴から溢れてしまうという問題や、ヴィクトリア湖周辺のような湖畔地帯では、地下水位が高いため穴の中に水が入りやすく、水質や土壌汚染を防ぐことが難しい。さらに、コゴニ準区は湖畔に地下水位の高い地域がある一方、その周囲は地盤の固い高地となっており、ピットラトリン用の穴を掘ることが難しい。こうした事情から問題の解決はされていない。

※活動の主な資金：

TOTO 水環境基金 2,960,000 円

以上